乳幼児の発達環境としての父母の養育観・発達期待に関する研究

柏　木　恵　子（東京女子大学）

親の子どもへの態度，しつけ，さらに母子関係の特質を把握する方法として，しつけ方略（Control Strategy）が有用であることが確かめられている（東，柏木，ヘス，1981 東大出版会）。

そこでは，就学前幼児を対象とした質問項目とその分析法とが開発されているが，同方法を乳児期の母子関係にも適用する可能性と有用性が期待される。

そこで，このしつけ方略を中心に，以下の研究を進めたい。

1. 乳児を対象とする質問項目の確定と，その分析法を開発すること。
2. 1による資料の収集を行ない，母子関係や乳児の特質との関連について検討する。
3. 幼児段階での母親のControl Strategyについて，既に収集したデータのある日本，米国，インドのサンプルの比較検討を行ない，しつけ，母子関係の特質を社会・文化的背景との関連で考察する。

昭和58年度研究報告

本年度は，計画のうち，1.乳児を対象としたControl Strategyの研究法の検討を行なった。特に1,2歳児に対する親のControlがどのような行動に対して，どのような手段で行われているかを探り，質問項目を選定するための予備的調査を実施した。

1,2歳児をもつ母親との個別面接により，

☆ 子どものどのような行動をいけない困ったこととみ，やめさせたり直したりしたいと考えているか。

☆ そのために，どのような仕方で（言語的，非言語的を含む）子どもをコントロールしているか。

☆ 親のコントロールに対して，子どもはどのような反応を示すか。

の3点について資料を集めた。

当該年齢児の母親に，ほぼ共通してコントロールすべきだと考えている問題行動で，しかも母親のコントロールの仕方に多様なものがあり，個人差を把握しうるものという観点から，資料の検討を行いつつある。